

夢中熱中青春ライフ!



絵夢人倶楽部

スクリーンにその時代の世相や夢などを写し出す映画。今回は、映画に魅せられ、その素晴らしさについて語り合い、映画の灯を再び大きくともそうと頑張っている絵夢人倶楽部の皆さんをご紹介します。会長の越前貞久さんからお話を伺いました。

映画好きが

自然に集まってきた

倶楽部ができたのは、昭和五十年二月です。当時はまだ映画が盛んで、市内に映画館が五館もありました。映画が好きで何度も映画館へ足を運んでいると、よく来ていたお客さんがいたん



前越会長が前列左、吉田顧問が前列右、3列目左が会員の皆さん

です。ね。そういう人たちと映画について話し合うようになり、自然に会ができたんです。会員は、現在三十人ほどです。

活動は、毎月一回、無料の定期上映会と会報の絵夢人通信の発行のほかに、子供会や町内会、老人クラブからの依頼による出前上映会などもしています。

定期上映会では、会の人たちが見たいのを配給会社から借りたり、会員で顧問の吉田一雄さんがコップ集めたフィルムを借りたりしたのを上映しています。今まで、ヒッチコック特集、映画の断片を集めた日本映画女優史、予告編だけを集めたものなど、いろいろ企画しています。また、会報は、会員の人たちが見た映画の感想や批評を発表する場として発行するようになっています。最近の会報では、「ミステリー映画「氷の微笑」の

犯人を、誌上を通じて議論し合ったりして楽しんでいます。



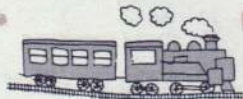
活躍した鳥潟さんの無声映画の弁士として

映画界の

活性化のために

会員のみんなは、根っからの映画ファンなんです。ですから、テレビやビデオの普及などで映画業界が斜陽化し、また映画館が少なくなってきたのは寂しいかぎりです。そんな中で、長年にわたり無声映画の弁士として活躍していた、当会名誉会員の鳥潟幸蔵さんが三年度市政功労者として表彰をいただいたのは、仲間として大変うれしかったですね。その鳥潟さんが、今年の九月に八十七歳で他界したのは残念でなりません。彼の追悼上映会を十一月十九日午後六時から大町の「ハチ公プラザ」で開催します。皆さん気軽にいらしてください。

仙台発 → 大館着



前略

大館市民になりました

20

☆今回は御成町一丁目の小野寺長寿さんご一家です。Q・ご家族は何人ですか?

妻と子供とおばあちゃんの四人です。子供は一歳九か月になりますけど、二月にはもう一人増えます。

Q・どちらから転入されましたか?

仙台市から今年の四月下旬に来ました。私は県南の湯沢市出身ですが、妻とおばあちゃんは宮城県気仙沼市の出身です。

Q・大館市の印象はいかがでしたか?

のんびりしていて静かですから、小さい子供を育てるにはいい環境ですね。近所の人は、気軽に話し掛けてくれますし、親切で温かみがあります。

Q・言葉や食べ物などはどうですか?

私は県内出身ですから、妻とおばあちゃんに話しても大丈夫です。「若い人が話すのは分かりませんが、おじいちゃんやおばあちゃんが話すのは早口のせいかもしれませんが分からないですね。食べ物、山菜やキノコの種類が豊富にスーパーに出ています。先日トンプリを初めて買ってきたんですが、食べ方が分からなくてまだ冷蔵庫に入れたままなんです。」

Q・大館にどんなことを望みますか?

大学ができるそうですね。若い人が増えますけど、その人たちが地元に着てくるような環境づくりが必要ではないでしょうか。あと、自分たちのまちを外に向かって売り込む姿勢が足りないような気がします。



長男の直樹ちゃん、明子さん、長寿さんとスエさん